

(習志野市)財務状況のご報告 ＜平成22年度＞

平成23年11月1日

国・地方自治体の実態

(資料)から導きだされる結論

当初想定された財政破綻問題は区別して考えるべき

国……………破綻の恐れあり

県……………インフラ資産の評価を0とみなすと破綻の恐れあり

市町村……インフラ資産の評価を0とみなしても破綻の可能性は
ほとんどない

自律性の問題

(補助金等に左右されない自主財源の確保が急務)

新地方公会計制度(財務4表作成)の始まり

1. 夕張市の破綻(平成18年6月以前)



2. 財務4表の作成・公表(平成20年度～)

- ・貸借対照表(BS)……固定資産台帳の作成
- ・行政コスト計算書(PL)
- ・純資産変動計算書(NW)
- ・資金収支計算書(CF)



3. アカウンタビリティ(説明責任)の履行
有効活用の実施(アセットマネジメント 等)

習志野市は全国に先駆けての取り組み

習志野市の概要①

ストック(BS)

(単位:億円)



単年度の資金
繰りに影響

資産債務改革
の対象資産

資産維持費の検討
資産の更新問題

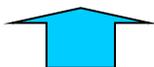
将来世代の
負担を示す
16.1%

純資産比率
83.9%
= $4,846 / 5,777$
実質純資産比率
29.1%
= $(4,846 - 4,465) / (5,777 - 4,465)$

資産合計(5,777億円)

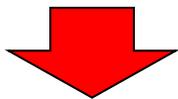
資産更新問題への対応のポイント

資産の更新問題 = 莫大な資金が必要となる



アセットマネジメント

1. 適正な資産規模の達成(施設の統廃合を含む)
→ 投資額およびメンテナンスのトータルコストを逡減させる
2. 適切な維持修繕による資産の長寿命化
→ 耐用年数の延長により実質的な投資コストの削減
3. 経営資源(ヒト・モノ・カネ)を優先的に集中して投資する



中長期投資計画の策定

調達できる資金を
考慮して資産の
更新問題に対応

習志野市の概要②

(単位:億円)

行政コスト計算書

これで良いように見えるが・・・？

経費等の圧縮
(財源余剰の
創出)

↓
経営力の差



人件費(150)

行政手数料
(155)

経費(180)

社会保障費
補助金(319)

税込
補助金
(696)

利息等(20)

費用合計(669億円)

(注)
公債等の(純)返済は
別途21億円ある

(注)
公会計では税金は行政コス
ト計算書には計上されない

地方自治体運営の今後のポイント

1. 原則、自然治癒はありえない(望めない)
2. “運営”から“**経営**”へ
3. キーワードは“**選択と集中**”
4. 単年度主義を脱却し、中長期的に解決を図る(**中長期経営計画**を策定する)